
黒い薔薇を買う女

高石 桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒い薔薇を買う女

【Nコード】

N0367Z

【作者名】

高石 桜

【あらすじ】

花屋で働く僕の所に最近とある女性が現れるようになった。彼女は何時も黒い薔薇だけの花束を買って帰っていく。彼女は送る為だというのだがその相手とは誰なのか？

花屋で働いている僕の所にその女性が現れるようになったのは最近のこと。

「ブラック・ローズありますか？」

「ブラック・ローズ・・・ですか、少々お待ちください。」

僕は店の中を歩き回ると、角にひっそりと目的の物は置いてあった。

「花束にしてください、送るようなので」

棘に注意しながら包んでそれを渡すと、受け取るのと同時に、

「お釣りは要らないわ」

そう言いながら万札を置いて嬉しそうに帰って行く。

それからというもの、度々店にやって来てはブラック・ローズの花束を買っていく彼女は喪服のような真っ黒な服を上下に着ている。

「いらっしやいませ。」

と僕が言うのに対し彼女はブラック・ローズを下さいでは無く、

「何時ものを下さい」

と言う様になっていた。

一体どれだけの数を売ったかは覚えてないが、少なくともワンルムマンションなら余裕で床を埋める程には達しているだろうと思った。しかも、彼女は何時も必要最低限以上のお金を払っているのだ。

ある日、風邪のために仕事を休んだ僕は布団の中で彼女の事を考えていた、今日も買いに来ているのだろうか、彼女は一体何者なのか？

そんな中、玄関のチャイムが鳴った。

「お届け物です」

宅配屋から荷物を受け取り部屋の真ん中で置いて、何処からか確認すると、

「これは、誰だ？」

あて先がとりあえず僕なので、恐る恐るガムテープを剥がし中身を確認したその時、

「お気に召したかしら？」

聞き覚えのある声がしたので後ろを見ると、声の主はやはり彼女だった。

「これは・・・どういう事なんだ。」

箱の中に入っていたのはあの黒い薔薇の花束。
驚く僕に対して、彼女はくすくす笑いながら、

「言ったでしょう？送るようだって。私はアナタに送りたいかったのよ。」

「何の為に？」

僕の質問に答える代わりに彼女はポケットに入れていた右手を出し、その手には拳銃が握られている。

そして、

「今日がアナタの命日なのよ、可哀想にね。」

そう言うのと僕の額に向かって発砲した。

死後、彼女は僕の部屋を黒い薔薇で埋め尽くして姿を消したらしい。結局彼女は一体何者だったのか？あれから多くの時間が過ぎたが、未だに分らないままだ。

（後書き）

初めての投稿作品なので出来はあまり良くないかもしれませんが、これを機に色々な作品を書いていきたいと思うので、応援のほうをよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0367z/>

黒い薔薇を買う女

2011年12月1日14時52分発行